



TITLE:

変りゆく目録 - オンライン検索は
じまる -

AUTHOR(S):

CITATION:

変りゆく目録 - オンライン検索はじまる -. 静脩 1988, 25(2): 6-7

ISSUE DATE:

1988-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37019>

RIGHT:

変 り ゆ く 目 録

ーオンライン検索はじまるー

1. カード目録からオンライン目録へ

本学では、明治30年の図書館創設準備時代から、多大の努力によって収集された図書のカード目録が作成されており、爾来、各学部所蔵の図書を附属図書館（中央館）で集中して検索出来る方策がとられて来た。これは総合大学のなかでは本学の一つの特色といえる。

当初から、昭和39年6月までの受入図書については簡略な記述の小型カード（12 cm×4.5 cm）を採用しており、同年7月以後は現在の標準カード（12.5 cm×7.5 cm）に移行して今日に至っている。この間に蓄積された目録カードは、和漢書・洋書を合わせ約500万枚に達しており、多くの利用者に活用されてきた。

カード目録は、長い間、各図書館で目録情報を支える手段として役立って来たが、近年、急速に発展して来たコンピュータ技術を駆使した新しい態様の目録が出現してきた。これにより、従来各大学図書館で異なっていた目録規則を統一化し、全国的に品質管理された書誌・所蔵情報を整備することができるようになった。地域的・全国的な規模での総合目録を構築することにより、学術情報資源の共有を推進することができ、研究・教育活動への支援に一層寄与しようというものである。

現在、全国の大学図書館が参加して学術情報センターが推進している学術情報システムは、目録・所在情報の形成と提供が大きな柱となっており、本学でも学術情報センターに目録登録を行うと同時に、そのデータを取り込み地域総合目録データベースへの一括登録作業を行っている。（詳細は『静脩』vol. 24, no. 3, 1988.1 参照）

2. 時代はOPACへ

コンピュータを使って利用者が直接オンライン検索出来る目録を OPAC (Online Public Access Catalog) という。これは従来のカード目録の欠点とされていたこと（例えば、目録作成とカード

編成のタイムラグ、排列の不統一による検索の漏れ、検索方法・場所の限定、カード室には多大のスペースが必要）を補い、さらに大きく発展させようとするものである。

附属図書館では、業務機械化を契機として目録システムの整備、目録データの入力、要員の養成等を行ってきた。このたび目録検索用端末機の設置、マニュアルの作成等の準備も整い、約半月の試行を経て9月1日から地域総合目録（検索対象図書約17万冊）の検索が可能となった。

《利用時間》

9時から17時まで。ただし、木、土は午前中。

《設置場所》

1階 メインカウンター前

《検索項目》

1. 書 名
2. 書名キーワード
3. 著 者 名
4. 著者キーワード
5. 出 版 者
6. 分 類
7. 請求記号
8. 図書受入番号
9. MARC 番号
10. ISBN

書名、著者名、出版者等の組み合わせ検索も可能です。

なお、利用方法については、掲示板の案内やマニュアルを利用し、不明な点についてはカウンターの掛員にお聞きください。

本学では、昭和60年度以降附属図書館で受け入れられた図書の入力から始め、順次、部局で整理した図書についても入力している。従って、その分についてはカード目録は新規に繰り込みされなくなった。また、本学では全学一斉に入力を開始していないため、両者を併用して検索する必要が

ある。

地域ネットワークとして、近畿北部地区（滋賀・京都・奈良）国立大学の図書も本学のホストコンピュータを通じて学術情報センターに登録されることになっており、附属図書館の端末機では、現在のところ、京都大学、滋賀大学、滋賀医科大学、京都工芸繊維大学の四大学の目録が検索出来るようになっている。

これらの情報は、本学では KUINS（京都大学統合情報通信システム）計画の進捗・具体化により、将来は図書館のみでなく、研究室の端末から自由に検索出来るようになる。

3. 今後の課題

もとよりデータベースとしては、より多くの大学・部局が、1冊でも多くの図書を入力されることが望ましい。しかし、本学では目録入力用端末機が十分行きわたっていないこともあり、入力件数は年間の受け入れ冊数に比し少数である。

8月31日現在の学術情報センターへの登録件数は、以下のとおりである。

	書 誌			所 蔵		
	和書	洋書	計	和書	洋書	計
京都大学	15,289	15,309	30,598	22,539	21,526	44,065
三大学計	8,649	6,102	14,751	11,758	7,344	19,102
合計	23,938	21,411	45,349	34,297	28,870	63,167

(注) 三大学計：滋賀大学、滋賀医科大学、京都工芸繊維大学の合計数

今後は、コンピュータシステムのレベルアップ等により、質的・量的転換の実現をはかって行く予定である。

さらに、新規に受け入れた図書の入力のみでなく、将来、京都大学90余年に蓄積された図書の目録が入力されるならば、地域的・全国的に活用され、はかり知れない効果を生み出すことであろう。

現在、主として国立七大学と学術情報センター及び国文研を中心に科研費による「大量文献情報遡及変換入力システムの高度化に関する研究」が行われている。遡及入力の必要性が急務とされている所以であり、この研究成果が期待されている。



学術情報センターの電子メールサービス始まる

すでにポスターやパンフレットで御覧になった方も多いと思いますが、国立大学共同利用機関の学術情報センターが、この4月から新しい事業のひとつとして、電子メールサービス（NACSIS-MAIL）を開始しました。

電子メールとは、パソコンなどの端末機を使って遠隔地の人々との通信を行なうもので、郵便・

電話・テレックス・ファクシミリなどと同じように遠隔通信手段のひとつといえます。郵政省も昭和56年から電子メールサービスを開始しており、最近では、ホビー用のマイコンやパソコンを使った通信のなかで BBS（Bulletin Board Service; 掲示板機能のこと）などの電子メールが随分利用されています。